



香川県教職員連盟機関誌
発行所: 香川県教職員連盟
発行者: 安本 薫

〒760-0004
高松市西宝町2丁目4番60号
香川県教育会館602号

TEL (087) 835-2721
FAX (087) 835-2723

http://www.kakyoren.com/
E-mail: info@kakyoren.com

毎月10日発行 定価1部50円
(年間1,000円 送料とも)
会員の購読費は会費の中に含む



香教連は、結成四十四年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。

教職員の働き方改革が現実になるためには……

今年三月に県教委から出された「教職員の働き方改革プラン」の内容を、現実化していく必要がある。プランでは、大きな四本柱を掲げている。その中でも早急に現実的な改革に取り組めるのが「学校運営の改革と意識改革」ではなかるうか。文部科学省「教員勤務実態調査」(二〇一六年実施)によると、小学校教員の三三・五%、中学校教員の五七・七%が週六十時間以上勤務、つまり月八十時間以上の過労死ラインを超える時間外労働をしていることは明らかになっている。しかし、ほとんど報道されていないのだが、このデータは自宅残業を含んでいない数値である。調査結果によると、小中学校とも先生方は、平均して週四、五時間程度自宅残業している。これに加えたラフな推計をすると、過労死ラインを超える人の割合は、小学校教諭の五七・八%、中学校教諭の七四・一%に跳ね上がる。

この現状を打破するために、横浜市立日枝小学校長の住田昌治氏は、「子供たちのために(寝食を忘れて働く)ことは美德ではなく、(寝食を忘れた)教員が疲弊して一番迷惑を被るのは子供たちである」という考え方に基づく取組をすることだと述べている。また、中教審委員である妹尾昌俊氏は、「子どもたちのためになるから、(前からやっていっていることだから)とばかり言わず、(真に)学校に必要なことは何なのか。重要なことは多いとはいえ、どこに優先順位を置くべきか。②学校教育で行うとしても、教師が行うべきか。③教師が行うとしても、過熱していないか。生産性を上げることができないか。などを業務内容を具体的に見直していくことが必要であると述べている。

現実的な働き方改革を前進させるためには、今、皆様の声が必要です。今、お一人お一人の先生方の大きな力が必要です。皆様の力で本当の改革を進めていきませんか。

全日教連・専門部会開催



五月十三日(日)、全日教連専門部会が開催された。香教連からは安本薫委員長(大内小)、古谷未来養護教諭部長(加茂小)、安部忠明特別支援教育部長(牟礼北小)、安富慶幸教諭(一宮幼稚園)の四名が参加した。

各専門部会では、平成三十年度専門部活動方針の検討として、議案書の内容・活動計画等について話し合われた。



さらに翌日の十四日(月)に行われた要望活動では、香教連から安富教諭が幼児教育部の代表として、幼稚園教諭の実態や現状を文部科学省・内閣府学省・内閣府担当者からは教育公務員(教

育専門職)としての身分確保を今後努力していくとの回答をいただき、定数改善や研修体制、養護教諭や事務職員の配置等についても要望し、意見交換を行った。



第48回定期大会のご案内

第48回香川県教職員連盟定期大会を下記の要領で開催いたします。

- ▼ 日時 平成30年5月26日(土)
受付 9:30
開会 10:00
 - ▼ 場所 香川県教育会館ミューズホール
高松市西宝町2-6-40
 - ▼ 参加 各単組選出の役員、代議員
- ※一般会員のオブ参加も可能です。
※問い合わせ 香教連事務局まで
電話087-835-2721
FAX 087-835-2723



五月も後半にさしかかり、県内の小学校では運動会シーズンとなっている。子供たちの力一杯演技する姿が各学校で見られるのではないだろうか。非常に楽しい。そしてその影には、先生たちの熱心な指導があることは言うまでもない。子供たちの実態に合わせたダンスの構成や振り付け、使用曲の選曲等、時間をかけて考え、子供一人一人が輝けるよう、日々指導を続けている。もちろん毎日の授業もある。教材研究や評価も当然である。職員会議では六月の行事予定や一学期末の成績処理のことも検討されている。そんな中、ふと顔を上げて時計を見ると、夜の八時過ぎ……ということは、日常茶飯事である。▲過労死ラインを超えた勤務状況が危惧されている中、「子供たちのために」という思いも大切にしたい。毎日、葛藤の連続である。(薫)